

令和6年度和歌山県学習到達度調査(中学校)12月調査結果概要

1 調査の概要

(1) 調査日 令和6年12月10日(火)

(2) 調査の目的

県内の中学校における生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
また、学校における生徒への学習指導の改善・充実に役立てる。

(3) 調査内容

調査を実施した学校、生徒、教科

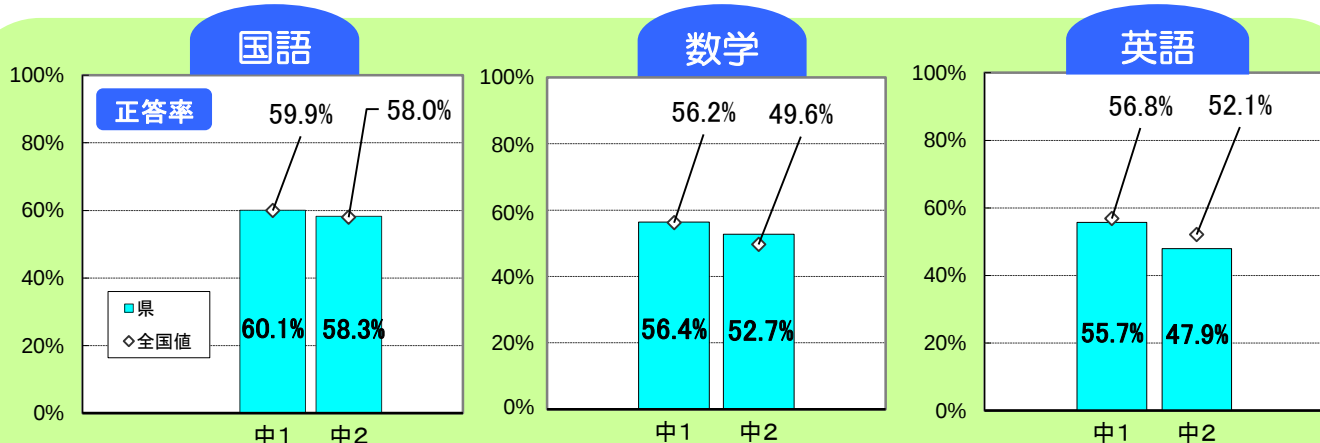
公立の中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、
特別支援学校中学部第1・2学年

学 年	学校数	生徒数	実施教科
中学校第1学年	115校	5999人	国語 数学 英語
中学校第2学年	115校	5819人	

2 結果の概要

【平均正答率】

	国 語		数 学		英 語	
	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年
県	60.1	58.3	56.4	52.7	55.7	47.9
全国	59.9	58.0	56.2	49.6	56.8	52.1
差	+0.2	+0.3	+0.2	+3.1	-1.1	-4.2



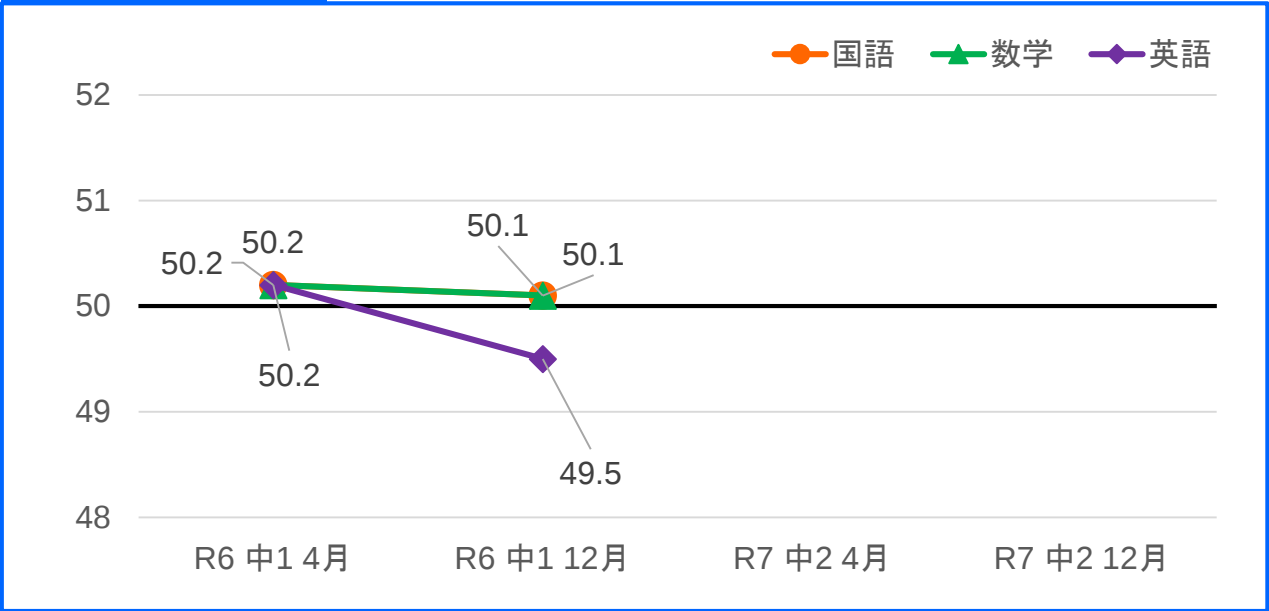
【標準スコア】 全国の平均正答率を50としたときの換算値

	国 語		数 学		英 語	
	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年
R4 4月	49.2	49.2	50.5	50.6	50.9	49.8
R4 12月	50.1	48.4	51.8	50.2	51.9	50.0
R5 4月	50.2	49.1	50.0	49.5	49.7	49.7
R5 12月	49.8	49.6	51.0	50.3	50.5	50.3
R6 4月	50.2	50.1	50.2	50.1	50.2	49.9
R6 12月	50.1 ↓	50.1	50.1 ↓	51.1 ↑	49.5 ↓	48.1 ↓

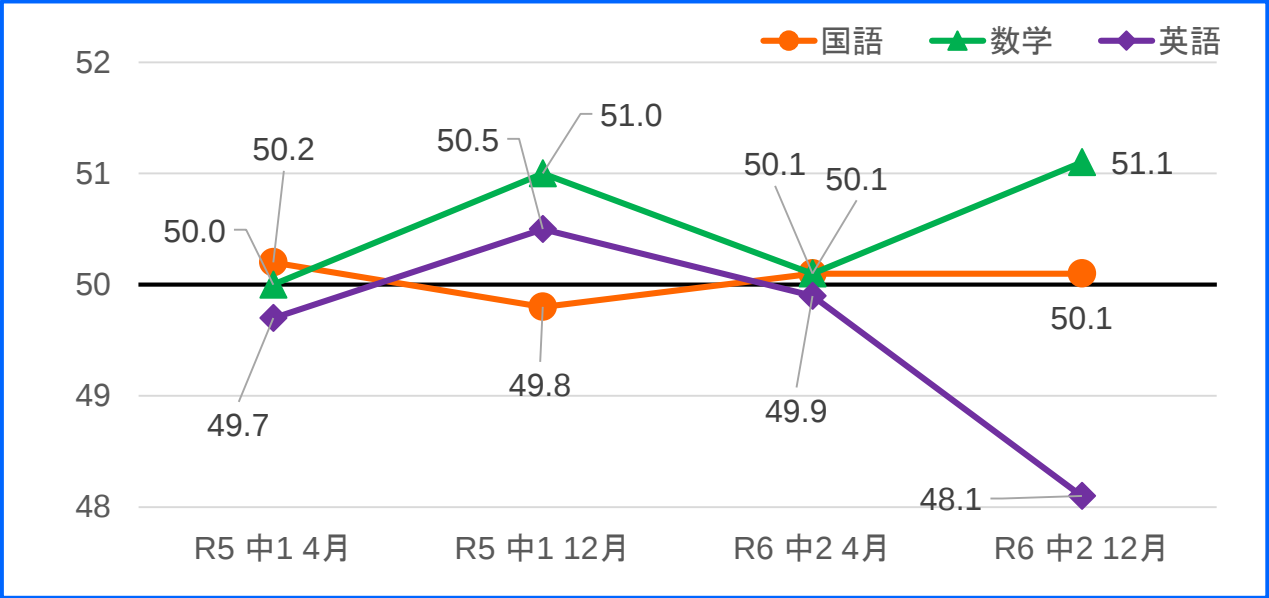
※ ↑↓ は、標準スコアのR6年度4月調査からの変動を表しています。

【同一集団における標準スコアの推移】

令和6年度 第1学年



令和6年度 第2学年



3 各教科の成果と課題(国語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ②	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	87.7	86.4	+1.3

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	自分の考えを明確にして書いている。	57.8	54.1	+3.7

【課題のある問題と改善のポイント】

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(1)	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。	52.4	57.0	-4.6

「楽しいよ。楽しいから練習してるんだもん。」という朔の言葉と「怒られないように頑張る」という私の気持ちから、「歌う」ことの目的が対比されていることが読み取れる。授業においては、登場人物の言動や気持ちに着目させ、本文中のキーワードを取捨選択しながら、心情を読み取っていくことが大切である。

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(3)	情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	29.9	32.4	-2.5

□ A □には、【資料】から読み取ったことを、数値を挙げて書くこと、□ B □には【資料】から読み取ったことをもとにして、考えられる課題への対応を書くことが必要である。授業においては、グラフや資料のどこに注目して読み取るのか、また、読み取った内容を根拠にして自分の考えや課題を書く活動を取り入れていくことが大切である。

第2学年

【比較的できている問題】

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
2(2) ③	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	67.1	61.9	+5.2

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7	自分の考えを明確にして書いている。 (第1段落で書いたことを踏まえて、第2段落に自分の考えを書いている。)	60.9	51.0	+9.9

【課題のある問題と改善のポイント】

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
1(2)	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。	70.5	77.7	-7.2

川田さんと岡本さんが、言葉だけでは伝わりにくい部分を視覚的に補うために、資料を使って話すことで、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫していることを理解させたい。そのために、普段の授業の発表の場面でICTを活用したり、資料や機器を使用したりする活動を取り入れていくとよい。

設問 番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(1)	登場人物の言動の意味について考えて、内容を解釈している。	62.8	68.5	-5.7

佐々木の言動を受けて、自分が正しいと思っていたことをくつがえされたという亜樹の心情を読み取ることができる。授業においては、登場人物との対話、相互関係、言葉や行動などから心情を推測することが大切である。

3 各教科の成果と課題(数学)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(2)	数量の関係を不等式で表すことができる。	36.8	25.6	+11.2

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
11(4)	反比例の式から、そのグラフをかくことができる。	60.9	49.6	+11.3

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
1(2)	絶対値について理解している。	54.7	64.0	-9.3

誤答の主な原因は、絶対値がどのような値を示すのかを理解できていないこと、絶対値が a である数や a の絶対値など、問われている値が何かを理解できていないことが考えられる。数直線を用いて原点からの距離が絶対値にあたると視覚的に示すことで、絶対値の概念を具体的に理解させられる。また、日常生活の中で絶対値がどのように使われているか例を示すことで実感を伴って理解させることができる。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6	1次方程式の等式の性質について理解している。	81.5	93.0	-11.5

誤答の主な原因は、移項という用語が何を表すのか理解していないこと、等式の性質を用いて1次方程式の等式を変形させることに習熟していないことが考えられる。等式の性質の学習については、例えば、上皿天びんなどを用いる操作的な活動を取り入れるなどして、具体的なイメージをもって理解できるようにすることが大切である。また、移項以外に係数という用語なども覚えておきたい。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
16(2)	囲んだ数の和が、5の倍数であることの説明を完成することができる。	45.0	34.9	+10.1

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
17(1)	切片がどのような数量を表しているかを説明することができる。	41.6	31.6	+10.0

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
3(1)	加減法を理解し、それを使って連立方程式を解くことができる。	79.5	83.5	-4.0

誤答の主な原因は、加減法を用いて一つの文字を消去するのに二つの方程式をたすところを、消去するということからひいてしまったことが考えられる。加減法を用いて解を求めた後、その解を連立方程式に代入し、等式が成り立つかを確認させたい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(2)	1次関数の式から、グラフをかくことができる。	72.1	80.9	-8.8

誤答の主な原因は、傾きや切片についての理解が不十分であることが考えられる。また、特定の x の値に対して y の値を求める計算が間違っていることも考えられる。 $y=ax+b$ の a の値が傾きであり、正負によってグラフの傾き方向が変わることや b の値が切片であることなどを理解できるように、グラフと式を相互に関連付けることが大切である。

3 各教科の成果と課題(英語)

第1学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(1) ③	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(疑問詞which)	80.7	65.3	+15.4

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
8(2)	文の語順を理解し、正確に書いている。(whoseの疑問文)	69.1	45.5	+23.6

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
5(1) ②	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している。(主語が複数の場合の一般動詞の疑問文)	21.3	50.2	-28.9

主語が2人で、andでつながれている場合、生徒は誤って最初の1人だけに着目してしまうことが多い。日頃から、主語は誰か、動詞はどれかなど意識しながら英文を読む練習を重ねさせることが大切である。be動詞だけでなく、do、doesの使い分けや三単現についても、3年間かけて定着を図る内容であることを意識しつつ、粘り強く指導したい。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
6(3) ①	対話を読み、対話の流れと表から、必要な情報を把握して文脈に応じた内容を判断している。	36.0	45.4	-9.4

誤答の原因としては、英語による対話を、提示されている表の情報と対応させながら読み進めることができなかったこと等が考えられる。
本問のような問題に対応する力を習得させるためには、イベントのポスターから開催日時やタイムスケジュールを読んで、自分がどの時間帯に参加するかを決めたり、イベント紹介のパンフレット等を読み自分の目的に合うものを選んだりする活動等を取り入れることが考えられる。

第2学年

【比較的できている問題】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
9(1)	文の語順を理解し、正確に書いている。(接続詞thatの文)A	70.7	67.9	+2.8

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
10(1)	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whichを使ってどれが好きかをたずねる)	42.0	37.5	+4.5

【課題のある問題と改善のポイント】

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
7(3) ①	対話を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を選んでいる。	22.9	38.2	-15.3

誤答の主な原因としては、空欄の前後の対話の流れを把握できていなかったことが考えられる。本問のような問題に対応する力を習得させるためには、任意の箇所にオリジナルで1文付け加えさせる活動が効果的である。これは本文の内容がしっかりと理解されていないとできない活動であり、本文を理解することと同時に、英文を作り出すことの練習にもなる。

設問番号	出題のねらい	正答率(%)		
		県	全国	差
9(4)	文の語順を理解し、正確に書いている。(副詞的用法の不定詞)	14.0	25.2	-11.2

正しい語順で文章を書く力を習得させるためには、新出表現等を用いて繰り返し練習や言語活動に取り組むことが必要である。英語でやり取りした後で、話した内容について書く活動を行ったり、実際に問題に取り組んだりすることで、定着状況を把握し、必要に応じて手立てを行うなど、着実に定着させていくことが大切である。